

2005年7月30日

淀川水系流域委員会 様

宇治・世界遺産を守る会
藪田 秀雄

天ヶ瀬ダム再開発・毎秒1,500トンの放流について

1、私たちは、この間、①毎秒 1,500 トン放流のための宇治川河床掘削に関連する5つの工事（塔の島と橘島の東半分の掘削、塔の川締切堤、天ヶ瀬吊り橋→塔の川の導水管敷設、亀石直下の埋め立て、宇治橋左岸上流の埋め立て）によって、宇治川への転落・死亡事故など人命の危機、環境・景観破壊が進行している、②宇治川の改修は世界遺産一体となった宇治川の自然・歴史的景観がもつ特別の価値を認識して、最大限の慎重さが求められ、現在、環境・景観の修復が求められている、③天ヶ瀬ダム再開発、1,500 トン放流計画の再検討、歴史的景観の保全のために宇治川本川の掘削計画の変更が必要であることを提起してきました。

新たに委員になられた方は、流域委員会への意見書（336, 337, 339, 355, 357, 381, 415, 475, 499, 04年12月24日意見書ほか）、住民説明会（宇治会場および京都会場）での質問・意見、「住民の意見を聴く会」（05年12月5日）での意見、「天ヶ瀬ダムワークの意見書」、また宇治市の意見書を参照していただきたいと思います。

2、今回、淀川水系流域委員会へ報告された「天ヶ瀬ダム再開発に関する方針」を見た時、私たち住民の意見は一体どのように扱われているのか、国土交通省は住民の意見の反映という河川法の要請は無視できないことから、住民の意見は聞くが、聞きおくということになっているのではないかとさえ考えざるを得ません。

流域委員会は「事業中のダムについての意見書」（05年1月12日）において「天ヶ瀬ダムからの放流能力の増大方法・増大量のほか、・・・、宇治川の流下能力の増大方法についての調査・検討をより詳細に行い、」としていたが、河川管理者からはこの意見を踏まえた検討結果の報告も無いまま、天ヶ瀬ダム再開発実施の結論のみを出している。このことは極めて遺憾です。

3、下記の点について流域委員会の審議を通じて明らかにしていただきたい。

質問第1

「瀬田川洗堰の全閉ルールについて、滋賀県が見直しを提案している。淀川水系の治水の根本的な課題の一つとして、見直しも含め瀬田川洗堰の全閉ルールのあり方について検討してゆく」としている。いま琵琶湖の治水・利水・環境面から瀬田川洗堰の操作

規則の見直し検討が課題となっているが、その検討結果は出されていない。その検討結果と関係なく、瀬田川洗堰の放流量だけが決まるというのは合点がゆかない。

質問第2

「宇治川塔の島地区の改修規模は $1,500 \text{ m}^3 / \text{秒}$ なので、琵琶湖から放流できる最大量も $1,500 \text{ m}^3 / \text{秒}$ になる」（審議資料 1-6-3「天ヶ瀬ダム再開発の調査結果（とりまとめ）」10ページ）と記しているが、琵琶湖から毎秒 $1,500 \text{ トン}$ 放流している時、大戸川の流量はゼロであるのか。大戸川の流量毎秒 300 トン を考慮すると毎秒 $1,800 \text{ トン}$ が天ヶ瀬ダムに流入することになる。琵琶湖から毎秒 $1,500 \text{ トン}$ 放流できるのは大戸川流量がゼロの時であり、記述は不正確でないか。

質問第3

天ヶ瀬ダムの放流量を洪水期制限水位で毎秒 $1,500 \text{ トン}$ の放流能力を計画しているが、天ヶ瀬ダムで毎秒 $1,500 \text{ トン}$ 放流すれば、下流で合流する宇治発電所の流量 毎秒 60 トン や志津川の流量を合算すると宇治橋付近での基本計画高水量 毎秒 $1,500 \text{ トン}$ を超えることになるが問題はないのか。天ヶ瀬ダム毎秒 $1,500 \text{ トン}$ 放流の時、宇治発電所の流量はゼロであるのか。明らかにされたい。

質問第4

宇治川の自然環境、歴史的景観を破壊する原因は、毎秒 $1,500 \text{ トン}$ の流下能力をもたせるための宇治川塔の島地区の河床の掘削計画である。

現在、宇治川の景観・環境をすでに損壊している工事がすべてこの河床掘削の関連工事である。

掘削量は当初計画の平均 3.3 m が 1.2 m 、 1.1 m になり、昨年9月には 0.8 m に変更された。

方針は「宇治川塔の島の開削については、景観を保全する観点から掘削量をできるだけ抑制するとともに、掘削形状についても検討を行います」としている。

そこで大いなる疑問ですが、河川管理者自身が宇治川塔の島地区で流下能力が一番小さい場所であると述べている亀石付近において、護岸工事の名目で、宇治川右岸の亀石直下から観流橋までの間を天端で 7 m 、川底で 14 m 、高さ 3.6 m 、長さ 150 m 程度、宇治川を埋め立てたことは納得できない矛盾です。これは何が目的ですか。明らかにされたい。

これを撤去すれば、流下能力はいくら増加しますか。

質問第5

宇治川の本川河床掘削のために派川である塔の川を締切堤で締め切ったが、宇治商工

会議所の委員会のある意見によればこの締切堤を撤去し塔の川も宇治川本川と同じ深さまで掘削してはどうかという意見がある。塔の川の締切堤を撤去すれば流下能力はいくら増加しますか。

質問第6

私たちは、世界遺産と一体となった宇治川の歴史的景観を保全するためには、河床を掘削するべきでないと考える。

掘削以外の方法を検討するべきで、鹿跳溪谷の景観保全のためにバイパス・トンネルを計画していることを考えると塔の島地区においてもバイパス・トンネルを検討すべきであると意見を出している。

国土交通省と流域委員会に提出された「天ヶ瀬ダムワークの意見書」（04年12月1日）でも「塔の島の景観保全のための代替案を検討すること」として、「河床掘削を極力減らすための代替案の検討」、「塔の島地区をバイパスするトンネル案を検討すること」の意見が出されている。

私たちの「質問及び意見書」（05年8月6日）の「天ヶ瀬ダムから宇治川 JR 鉄橋下流へのバイパス・トンネルの検討」に対して、河川管理者は昨年11月24日付で「迂回トンネルについては、地形や民家の密集状況から現実的でないと判断していますが、代替案の一つとして課題や問題点を整理して報告したい」と回答書をよせている。同様の内容は、「琵琶湖～宇治川までの流下能力 毎秒1500トンの整備について」（第6回ダムWG 資料1-2《平成16年10月4日》、琵琶湖河川事務所）に示されている。

河川管理者は、私たちの意見に対して、これまでいかなる検討を行ったのか明らかにされたい。また「天ヶ瀬ダムワークの意見書」の「塔の島地区をバイパスするトンネル案を検討すること」という意見をどのように受けとめているのか明らかにされたい。バイパス・トンネルについて更なる検討を求めたい。

質問・意見7

「掘削方法については、平成17年度に『宇治川塔の島周辺景観検討会（仮称）』を開催し検討してまいります」（審議資料1-6-3 「天ヶ瀬ダム再開発の調査結果（とりまとめ）」28ページ）としている「宇治川塔の島周辺景観検討会（仮称）」についての質問・意見です。

流域委員会は「事業中のダムについての意見書」（05年1月22日）の「天ヶ瀬ダム再開発」の「（4）宇治川の流下能力の増大」において「宇治川の歴史的・文化的景観に配慮して河床の掘削量をできるだけ抑えるとともに、過去の景観との対比を通じた新たな景観の創出を目指す改修計画を地域住民とともに構築することが重要である」と指摘している。私たちも、「『事業中のダムについての意見書（案）』の天ヶ瀬ダム再開発についての意見」（04年12月24日、委員会宛）において、「世界遺産と一体となった」「新

たな景観の創出を目指す改修計画を地域住民と構築する」ためのシステムが必要であり、その一つとして「地域住民、市民団体が参加する『宇治川委員会』（仮称）の設置」が必要であると意見してきました。

今回設置される「宇治川塔の島周辺景観検討会（仮称）」は、単に掘削方法についてだけを検討するのではなく、「世界遺産と一体となった」宇治川の「新たな景観の創出を目指す改修計画を地域住民と構築する」ための検討会にしてもらいたい。私たちも参加したいと考えている。

淀川水系流域委員会の新規委員は公募したのですから、同様に、「宇治川塔の島周辺景観検討会」も委員を広く住民に公募し、幅広く意見が反映できるものにしていただきたい。河川管理者の考えはどうか。委員会としても河川管理者に委員公募を要請していただきたい。

質問 8

審議資料 1-6-3 の「天ヶ瀬ダム再開発の調査検討（とりまとめ）」の 28 ページ、29 ページに掲載された宇治川の「現況写真」は 1,500 トン放流のための工事によってすでに大きく様変わりした後の写真である。0.8m掘削時のフォトモンタージュとの比較は、本来、関連工事实施以前の状況写真と比較するのが天ヶ瀬ダム再開発による影響を正確に認識する時に必要であると考えます。

関連工事によって大きく様変わりしてしまった現況とさらなる工事による予測のフォトモンタージュの比較という手法は、意図的であるなしを問わず、天ヶ瀬ダム再開発による自然・歴史的景観の破壊・変化を小さく見せてしまう危険性がある。

質問 9

低周波振動

天ヶ瀬ダムで毎秒 1,500 トン放流を行った場合の低周波振動の増大に対して低減策を検討するとしているが、コンジットゲート 3 門による毎秒 900 トン放流からコンジットゲート 5 門による毎秒 1,500 トン放流にした場合、どのような低周波振動の低減方策があると考えているのか明らかにされたい。

平成 13 年、15 年、16 年の調査結果を明らかにされたい。

以上